

# 翻訳からコミュニケーションへ 生成AIが変える現場のローカライズ

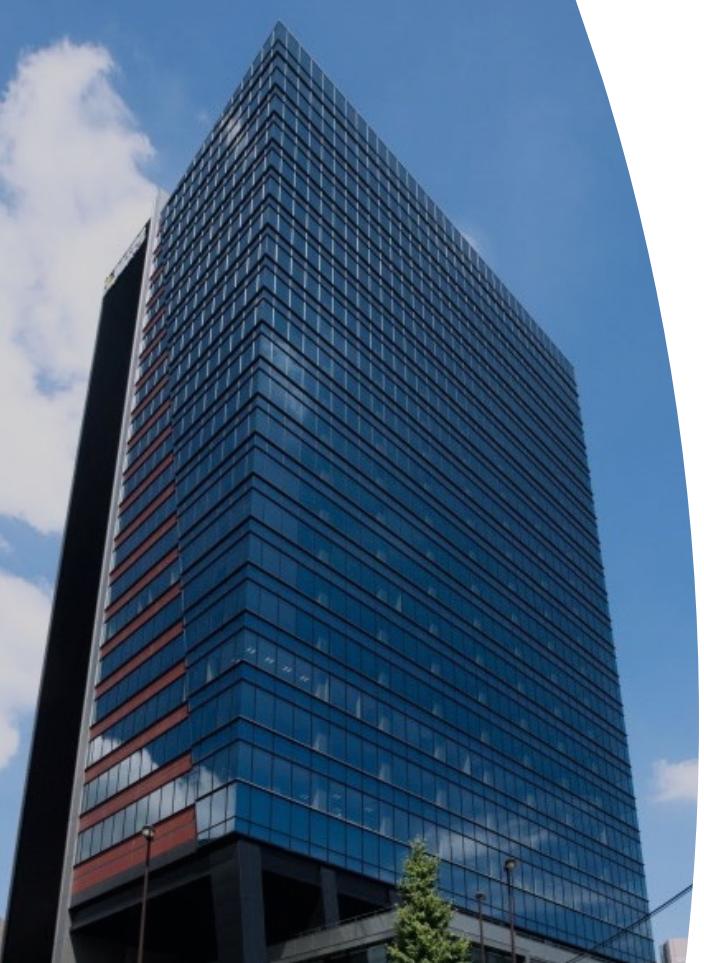
2025.12.02

パナソニック コネクト株式会社  
特命担当 兼 コーポレートPR マネージャー  
戸田 広美

**Panasonic**  
**CONNECT**



# パナソニック コネクト会社紹介



# 会社概要



名称	パナソニック コネクト株式会社
英文名称	Panasonic Connect Co., Ltd.
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号 住友不動産汐留浜離宮ビル
Tel	03-5565-8700 (代表)
Web	<a href="https://connect.panasonic.com">https://connect.panasonic.com</a>
設立	2022年4月1日
プレジデント	樋口泰行
事業内容	「サプライチェーン」「公共サービス」「生活インフラ」「エンターテインメント」分野向け機器・ソフトウェアの開発／製造／販売、並びに、システムインテグレーション／施工／保守・メンテナンス、およびサービスを含むソリューションの提供
従業員数	約29,700名 国内 約12,200名 / 海外 約17,500名 (2025年7月1日現在)
売上高	1兆 3,332 億円 (2024年度)
拠点数	国内事業所 10 (含む工場5箇所) 国内関連会社 10 海外事業所 23 (2025年7月1日現在)

## グループ体制について

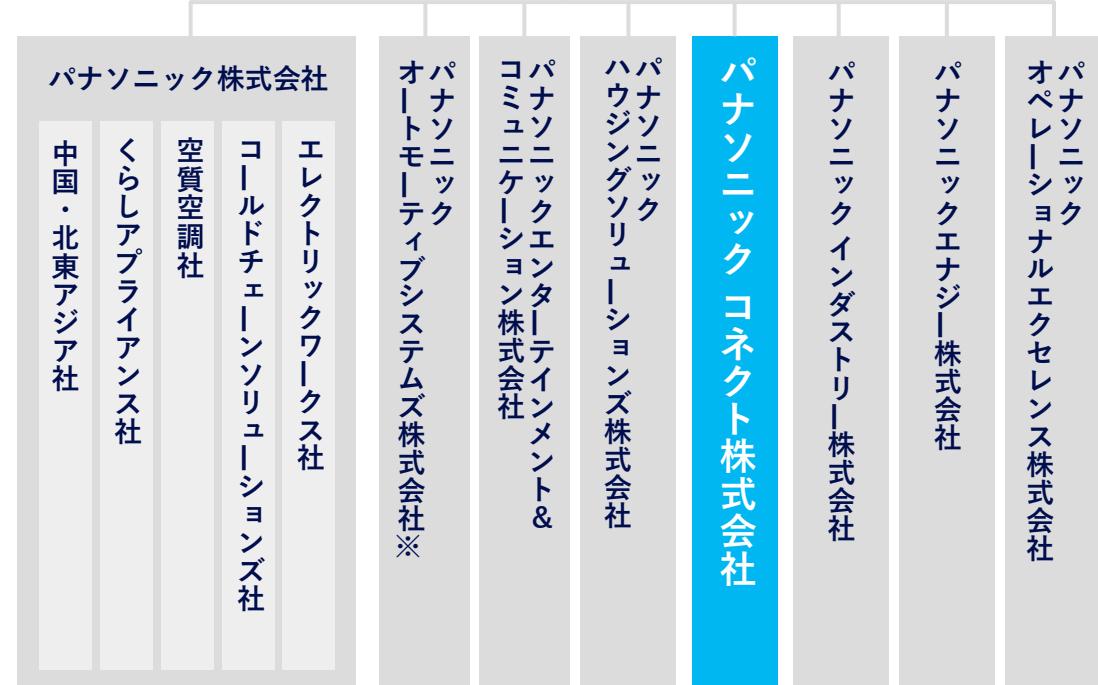
-2022.3

2022.4-

パナソニック株式会社

- ・ コーポレート戦略・技術部門
  - ・ くらし事業本部
  - ・ オートモーティブ社
  - ・ エンターテインメント＆コミュニケーション事業部
  - ・ ハウジングシステム事業部
  - ・ コネクティッドソリューションズ社
  - ・ インダストリー社
  - ・ エナジー社
  - ・ オペレーションナルエクセレンス社

パナソニック ホールディングス株式会社



※パナソニック ホールディングス株式会社（PHD）は、パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社（PAS）の事業において、アポロ・グループと戦略的な共同パートナーとなりました。その結果、2024年12月よりPASは、PHDの連結子会社でなくなり、PASの親会社の持株会社であるStar Japan Holdings株式会社（その孫会社となるPASを含む）は、当社の持分法適用会社となりました。

# お客様の「現場」に貢献する、BtoBソリューションを提供

01

## Supply Chain

サプライチェーン 製造 / 物流 / 流通

- ・ 現場課題を可視化するセンシング、AI、ロボティクスなどのテクノロジー
- ・ 専銳化されたハードウェアとBlue YonderのLuminate™ ソフトウェアの融合



02

## Public

公共サービス 学校 / 警察 / 自治体

- ・ 教育現場におけるハイブリッド授業実現
- ・ 警察業務（交通安全など）の精度・効率の向上に貢献
- ・ 地域の防災と地域情報に関わるソリューション



03

## Infrastructure

生活インフラ 航空 / 鉄道 / エネルギー

- ・ 顔認証による新しい旅客体験
- ・ 最先端の機内エンターテインメント・コネクティビティソリューション
- ・ 駅構内・指令所での安全ソリューション
- ・ エネルギーの安定供給に向けたセキュリティ強化



04

## Entertainment

エンターテインメント スタジアム/放送/イベント

- ・ 大規模な空間で非日常をクリエイト
- ・ 多彩な放送・業務用映像製品とシステム
- ・ 進化を続ける放送・CATV業界の番組制作から経営まで支援するトータルソリューション



# パナソニック コネクト 事業

回路形成プロセス 事業部 (CPBD)	溶接プロセス 事業部 (WPBD)	モバイル ソリューションズ 事業部 (MSBD)	パナソニック アビオニクス (PAC)	現場ソリューション カンパニー (GSOL)	パナソニック プロジェクター& ディスプレイ(株)	Blue Yonder
						

# サプライチェーンのさらなる強化のために

Blue Yonderとのこれまでの関係強化を通じ、オートノマスサプライチェーンの実現を目指す

2019.11 協業開始

2020.7 20%出資

2021.9 全株式取得完了



世界最大のサプライチェーン・ソフトウェア専門企業

81ヶ国  
でビジネスを展開

グローバル  
顧客 3000+ 社

製造業 46 Global Top  
社/100

物流業 28 Global Top  
社/50

小売業 76 Global Top  
社/100

# パナソニック コネクトの企業改革

# 3階層の企業改革への取り組み

風土改革を企業改革のベースに

3階

事業立地改革

選択と集中の実践

2階

ビジネス改革

専銳化/オペレーション改革

各職能の取り組み

1階

風土改革

カルチャー&マインド改革

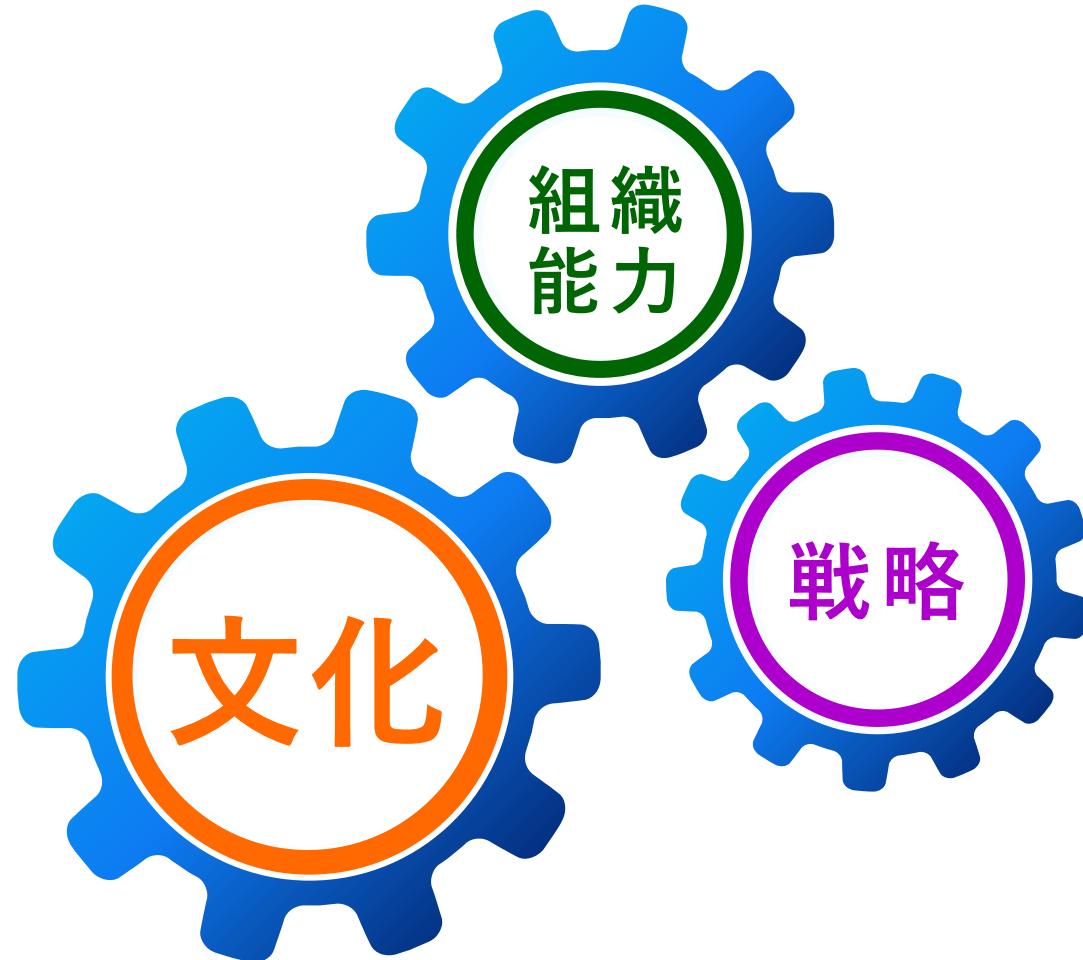
働き方改革

コンプライアンス

DEI (Diversity, Equity & Inclusion)

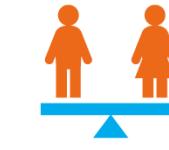
# 企業競争力の源泉： 企业文化

組織文化が変わらなければ、組織能力や戦略を活かせない



# カルチャー&マインド改革

多くの施策を全社で同時並行して実践



健康課題リテラシー向上

全職場にDEIリーダー設置

DEIキャラバン

DEI month

卵子凍結

コンプライアンス

コンプライアンスから  
インテグリティへ

ハラスメント撲滅

※主な取り組み事例

# 社内での生成AI活用

# 2023年2月17日からConnectAIを国内全社員に展開

≡ ConnectAI

o3-mini(思考モデル) ▾

サンプル

Prompt: 厳密・秘情報、個人情報は入力禁止

SUBMIT プロンプトAI添削

Google検索: OFF ②

連携しない (checked)

パナソニック用語データ連携

ITサポート・データ連携

PCO人事研修データ連携

PCO品質データ連携



OpenAIの最新モデルo3-miniが利用可能になりました

2025年1月31日にリリースされたばかりの最新モデルOpenAI o3-miniが利用可能になりました。プログラムと数学に強いモデルと言われています。ぜひお試しください

思考モデルとは考えてから回答するモデルです

思考モデルは以下のステップで考えて回答してくれます。

1. ユーザーのリクエストを分析
2. 検討ステップを計画
3. 1次回答を作成
4. ユーザーの要求を満たしているかを確認
5. 確認して修正した上で回答を返信

**Gemini 2.0 Flash Thinkingが最新バージョン（2025年1月21日）に更新されました**

Gemini 2.0 Flash Thinkingは回答速度、精度ともにバランスの良いモデルとなっていますので、一度お試しください。  
\*Gemini 2.0 Flash ThinkingはExperimentalモデルのため、正しく動作しないケースがあります

**GPT-4oなどの方が早く同じレベルの回答を返すケースが多いです**

思考モデルは回答に時間がかかるため、通常はGPT-4oなどのモデルを利用してください。

# 生成AI導入目標と2年の成果

01

業務  
生産性向上



業務削減時間

448,000h

02

社員の  
AI活用スキル  
向上



戦略策定や  
商品企画に活用

03

シャドー  
AI利用リスク  
軽減



AI関連の事故

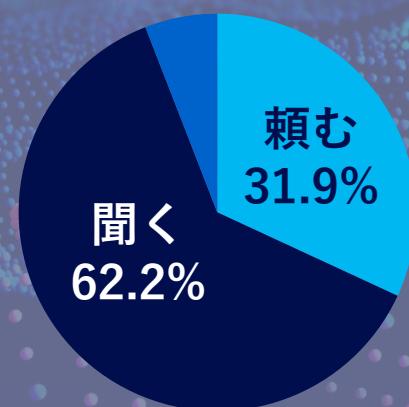
0回

# Connect AIの進化

## 「聞く」から「頼む」へのシフトで削減時間の増加

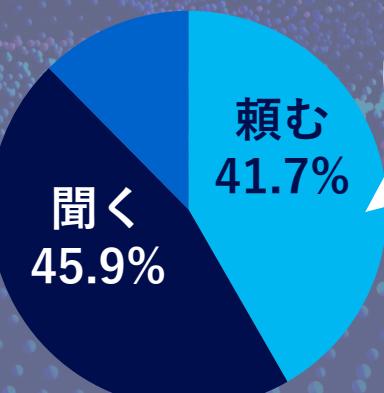
<2024年の利用実績> 削減時間：44.8万時間（昨年比2.4倍）

「聞く」が半分以上



2023年5月

「頼む」へのシフト



2025年5月

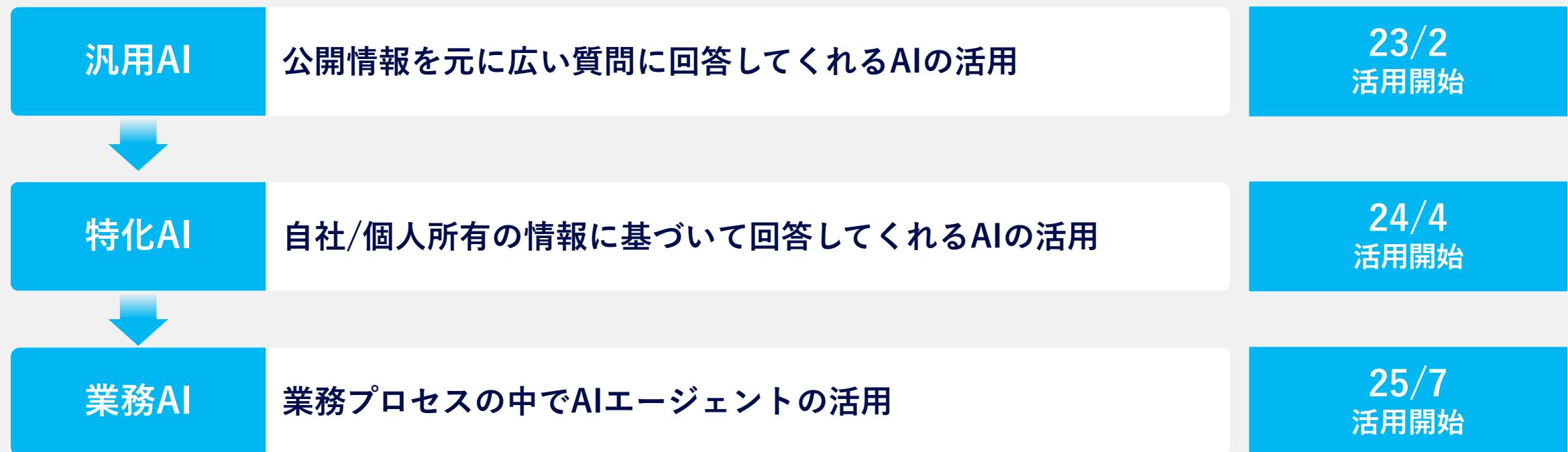
社員スキル向上

AI技術の進化

10%増

# 今後の戦略: AIエージェント活用を加速

- ・ 25年度は業務AI(エージェント)の活用に注力
- ・ 従来は3ステップ目は個人特化AIだったが、より効果が大きい業務AIに変更
- ・ 個人特化AIは特化AIに包括し自社に加え、個人に特化した情報も利用可能に



# 現場での活用実例とチャレンジ

## 実例 1 外資系ITベンダー時代

米国本社発信の資料・記事翻訳が大きな負担

プレスリリース、レポート、ホワイトペーパー、ブログ、ケーススタディ

1社の機械翻訳だけでは修正が多く実用レベルではない…

DeepL登場後：自然な日本語に近づき常用化

翻訳の質・量ともに大幅に効率化、修正の際に比較・併用が可能に

翻訳精度の比較・使い分け：Google／DeepL／生成AI

# ローカライズ業務の運用実態

急ぎ案件：自身で  
機械翻訳 + AI翻訳  
+ 最終調整

大量案件／正確性重視：  
翻訳会社へ委託

翻訳会社の役割変化

翻訳 + PowerPoint成形・動画字幕など後工程支援へ

## 実例2 日本企業でのグローバル対応

グローバル子会社の資料翻訳、日本からの共有時の英文化対応

プレスリリース、レポート、ホワイトペーパー、ブログ、ケーススタディ

量・頻度多くはないが当日対応等急ぎなものが多い

英語→日本語、日本語→英語 双方向で機械翻訳を活用

米ネイティブも機械翻訳で一次翻訳 → ネイティブチェック

Quickにチェックを行う程度でスピードがさらにアップ

会議中のリアルタイム翻訳

# 生成AIがえた現場のローカライズ

- 初稿作成のスピードが劇的に向上  
翻訳 + 要約 + 構成案まで出力。人の作業は“レビューと調整”にシフト
- “対話で仕上げる”スタイルへ  
トーン・難易度・対象者などを後から調整可能、“伝わる文章”に近づけ  
やすく
- 途中で方向転換してもすぐ別案を生成  
何度もやり直しが可能。“手戻りコスト”がほぼゼロに

生成AIがえたのは、翻訳の“作業”ではなく、翻訳を中心とした“仕事の進め方”

# 現場におけるチャレンジ

- 01 機密度高案件は**社内向けの生成AIでもNG**
- 02 セキュリティ観点での生成AIの**活用制限**
- 03 英語の意訳／日本語表現の柔らかさ **トーン調整**
- 04 “正確性”では伝わらない**ニュアンス調整、文化の違い**
- 05 **対象による表現の違い**（経営層・一般社員・社外）

# これからの翻訳・ローカライズの可能性

# これからの翻訳・ローカライズの可能性



# 翻訳・ローカライズの進化—具体的な変化ポイント



会議字幕・同時通訳  
の自動化が進み  
“言語で会議が止まらない”世界へ



情報  
デザイン化

翻訳は文章変換から  
“誰にどう伝えるか”  
の設計作業に進化



多言語/マルチ  
モーダル化

1つの原文から  
複数言語/音声/図解  
が同時生成される  
未来へ



人・プロの  
高度化

AI活用で生産性が向上。  
人の価値は「判断・共感・倫理・品質保証」にシフト



誰でも  
翻訳者に

社内メール、議事録、SNS、資料作成…翻訳は“誰もが日常的に行う作業”に

翻訳業務は「情報を最適な形で届ける技術」へと拡大・進化

# まとめ

- MT + 生成AIを使い、人が“伝わる形”に最終化
- 人間の役割はさらに重要で高度に
- 必要なのは、AIを“使いこなす力”と“人にしかできない判断”
- AIと人が補い合い、協働していく時代へ

# Panasonic CONNECT